

【細菌部門】

場所：独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所 期間：平成 23 年 11 月 29 日～12 月 2 日

月日	曜日	午前 (9時～12時)	午後 (13時～17時15分)
11/29	火	開会式	事例報告 事例報告 講義Ⅰ 「疾病コントロールを 目的とした包括的抗 体検査」 (株)微生物化学研究所 大石英司 講義Ⅱ 「豚赤痢」 茨城大学 足立吉數
30	水	講義Ⅲ 「牛乳房感染にかかわる黄色ブドウ球菌の遺伝学的 背景と分子疫学解析」 寒地酪農衛生研究領域 主任研究員 秦 英司	事例報告 事例報告 講義Ⅳ 「新しい遺伝子型を示す豚丹毒菌に よる野外感染事例」 「豚マイコプラズマに対する免疫と 病変形成について」 日生研(株) 長井伸也
12/1	木	講義Ⅴ 「サルモネラ主要血清型迅速同定法の開発と応用」 細菌・寄生虫研究領域 主任研究員 秋庭正人	事例報告 事例報告 講義Ⅵ 「抗酸菌感染症とその検査法」 細菌・寄生虫研究領域 領域長補佐 森 康行
2	金	講義Ⅶ 研究トピック 「ISを介した細菌ゲノムの多様化と分子疫学的解析」 細菌・寄生虫研究領域 主任研究員 楠本正博 「液性免疫応答を介したサルモネラ感染防除機構の 解析」 細菌・寄生虫研究領域 主任研究員 江口正浩	事例報告 個別研修

TOPICS

農研機構国際シンポジウム

「アジア地域の動物疾病制圧および根絶に関する現状と今後の課題」について

動物衛生研究所は動物医薬品検査所と共同で「アジアにおける家畜疾病の診断及び防疫と動物用医薬品評価」を協力分野とする国際獣疫事務局(OIE) コラボレーティングセンターとして認定されており、この活動の一環として、2011年11月14日(月)にタワーホール船堀(東京)で標記の国際シンポジウムを開催しました。

当シンポジウムは最近アジア地域

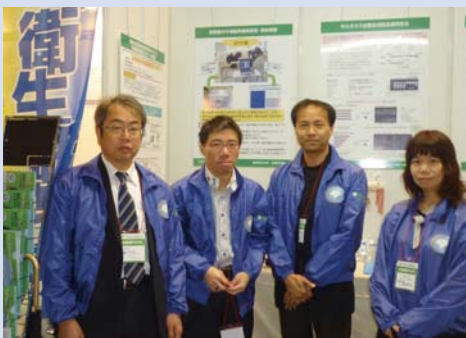
で特に問題になっている口蹄疫、インフルエンザ、伝達性海綿状脳症、アルボウイルス、豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)、細菌感染症(サルモネラ症とレンサ球菌感染症)の6つの家畜重要疾病を取り上げ、その制圧および根絶に関する現状と今後の課題について、日本および海外の研究者による講演と積極的な討議が行われました。海外からは韓国から4名、ベトナムから3名、タイカ

ら1名、台湾から1名の計9名を発表者として招聘しましたが、それぞれに充実した内容で、動衛研としては記念すべき国際シンポジウムとなりました。参加人数は外部参加者63名、動衛研29名、海外招待者12名で合計104名となりました。このシンポジウムによりコラボレーティングセンターの活動がさらに加速することを期待します。

(企画チーム 高橋雄治)

アグリビジネス創出フェア 2011

2011年11月30日、12月1、2日の3日間、千葉県の幕張メッセで農林水産省主催の「アグリビジネス



創出フェア 2011」が開催されました。フェアには全国の産学官の研究機関等179機関が出展し、26,000人が参加しました。本年度のフェアでは震災・復興に向けた技術支援に関して、被災県を含めた18機関が特設コーナーを設けて出展しました。当所からは、①PCR法を用いたサルモネラ迅速同定法、②牛の脳幹機能検査システム、③豚リゾチームを発現する絹糸、

④養豚農家のベンチマーキングシステム、⑤今年度から研究がスタートした「家畜飼養管理システム」の5点についてポスター・製品展示を行うとともに資料配付を行いました。当所のブースには3日間で100名以上の訪問があり、具体的な研究協力の申し出があるなど、動物衛生研究に対する期待の大きさを実感した3日間でした。

(病態研究領域長(産学官連携担当)
八木行雄)